

## 施工とメンテナンス

スキッドガードTOUGHは施工前の「下地処理」から施工後の「メンテナンス」に至るトータルでの施工をご提案いたします。



①  
下地処理

下地の汚れを洗浄剤やポリッシャー等で除去します。



②  
上塗り1回目

下地が完全に乾燥した事を確認した後、均一にスキッドガードTOUGHを塗装します。



③  
骨材散布

上塗り(1回目)後30分以内に、骨材を均一に散布します。



④  
上塗り2回目

上塗り(1回目)乾燥後、均等にスキッドガードTOUGHを再度塗装します。



⑤  
メンテナンス

施工後は通常の簡単なメンテナンスを定期的に行う事により、きれいな状態を維持できます。

**塗装仕様** 施工場所・歩行頻度により骨材の種類を選択できます。

工程	塗料	調合比(A液:B液)	希釈率(%)	塗布量(kg/m <sup>2</sup> )	塗装方法	乾燥時間(23℃)
上塗り(1回目)	スキッドガードTOUGH	1:1	無希釈	0.15~0.20	ローラー <sup>(※2)</sup>	直ちに骨材散布を行う(30分以内)
骨材散布	スキッドガードベース(T)または(H) <sup>(※1)</sup>	—	—	0.05~0.07	手撒き等	12時間以上
上塗り(2回目)	スキッドガードTOUGH	1:1	無希釈	0.15~0.20	ローラー <sup>(※2)</sup>	最終養生24時間以上

- (注意)・厚塗りしすぎると、乾燥過程で発泡する可能性があります。極端な厚塗りは避けてください。  
 ・目地部に塗料が溜まると発泡する可能性があるため、目地部に溜まった塗料は均一にならしてください。  
 ・余分な骨材が残っている場合は、上塗り塗装2回目を行う前に骨材を回収してください。(※目安は写真1を参照してください。)

- (※1) 骨材はスキッドガードベース(T)または(H)が使用できます。  
 ・スキッドガードベース(T): 粒子径(400μm)  
 ・スキッドガードベース(H): 粒子径(150μm)  
 スキッドガードベース(H)は粒子径が小さいので、塗料の膜厚が厚くなると防滑性が出ない場合があるので注意してください。

- (※2) ローラーはスポンジローラーを推奨(※写真2)

写真1 骨材散布量の目安



写真2 スポンジローラー



## 塗料性状

	スキッドガードTOUGH(A液)	スキッドガードTOUGH(B液)	スキッドガードベース(T)	スキッドガードベース(H)	試験方法
外観	黄褐色液体	透明液体	粉末	粉末	目視
危険物分類	危険物第4類 第四石油類	危険物第4類 第四石油類	非危険物	非危険物	消防法

## 荷 姿

	容量
スキッドガードTOUGH(A液)	1.5kg
スキッドガードTOUGH(B液)	1.5kg
スキッドガードベース(T)	700g
スキッドガードベース(H)	1.8kg
標準塗り面積	8~10m <sup>2</sup>



## 物 性 試 験

試験項目	ベース(T)を使用した場合		ベース(H)を使用した場合		試験条件
	ベース(T)を使用した場合	ベース(H)を使用した場合	ベース(T)を使用した場合	ベース(H)を使用した場合	
歩行可能時間	24時間以上(23℃)				軽度な歩行による状態確認
可使用時間	10℃:90分 / 20℃:60分 / 30℃:40分				JIS K 5600-2-6
1次密着性	分類0(25/25)				JIS K 5600-5-6
耐摩耗性	19.1mg		19.7mg		JIS K 5600-5-9 テーパー式磨耗試験 (荷重:500g、回転数:1000回転 CS-17)
	異常なし				40℃×14日間浸漬
耐水性	分類0(25/25)				JIS K 5600-5-6
温冷繰り返し	異常なし				JIS A 6909準拠 20サイクル
	分類0(25/25)				JIS K 5600-5-6
耐滑り性(C.S.R.)	乾燥面	0.79	0.67	JIS A 1509-12	
	湿潤面	0.61	0.53	JIS A 1509-12	

素材:磁器タイル

### 防滑性について

C.S.R.値は東京工業大学で研究開発された耐滑り性試験機を用いて「人が歩いた時の感覚を最も忠実に数値化したすべり抵抗係数」を指します。日本建築学会のC.S.R.推奨値として、0.40~0.90C.S.R.が下足で歩行する際の滑りの安全範囲となっています。近年、床面の安全性を確保するために条例などでも採用されることが増えています。